

# 横浜国立大学・ワンダーフォーゲル・クラブの愛唱歌集

2007年・YWV創部50周年記念

愛唱歌集(故7期・下村弘道君に捧ぐ)より抜粋及び再々々編集

2007年6月11日発行



なえな小屋竣工式典での全員集合 1968年



## 目 次

- |                             |                            |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1. みはるかす<br>.....あ行.....    | .....な行.....               |
| 2. 赤いヤツケ                    | 14. 夏の思い出                  |
| 3. あざみの歌                    | 15. 入笠山の歌<br>.....は行.....  |
| 4. アルプス一万尺                  | 16. 晩歌                     |
| 5. 伊豆の踊り子                   | 17. ヒュッテの子守唄               |
| 6. いつかある日<br>.....か行.....   | 18. ピレネーの山の歌               |
| 7. 岳人の歌                     | 19. 冬の山                    |
| 8. キャンプファイヤーの歌              | 20. 穂高よさらば                 |
| 9. 国大山男の歌                   | 21. ベルクハイル<br>.....や行..... |
| 10. これでお別れか<br>.....さ行..... | 22. 山あれば (母の夢)             |
| 11. 山賊の歌                    | 23. 山男の唄                   |
| 12. シーハイルの歌                 | 24. 山の子の歌                  |
| 13. 四季の歌                    | 25. 山小舎の灯                  |
|                             | 26. 山の友よ                   |
|                             | 27. よか女子                   |

# 1. み は る か す

横浜国立大学・学生歌

作詞 鶴若英子 学・教 34 卒

作曲 大根田 遼 工・機 37 卒

みはるかす 青海原に

のび行きて 尽きせぬものは われらが思い

緑濃き丘にのぼりて

共に学ばん 共に語らん わが友よ



新しい世を 作るもの

光あり 望みを胸に われらが道を

悔いのなきその日々を

共に進まん 共に学ばん わが友よ

横浜国立大学・常盤台キャンパスの航空写真  
青海原は見えますが、清水ヶ丘の緑濃き丘は？

Moderato  
*mf*

1. み は る - か - す あ お う な - ば ら に の び  
2. あ た ら - し - き よ を つ く - る も の ひ か

*mp*

ゆ き て つ き せ ぬ も の は わ れ ら が お も い み ど  
り あ り の ぞ み を む ね に わ れ ら が み ち を く い

*mf*

り こ き お か に の ぼ り て と も に か た ら ん と も  
の な き そ の ひ そ の ひ を と も に す す ま ん と も

*f* *mf*

に ま な ば ん わ が - と も よ  
に ま な ば ん わ が - と も よ

## 2. 赤いヤツケ

作詞、作曲 不詳

赤いやツケに 夕焼け小焼け  
ほんにお前は おしゃれ者  
\* 山よさよなら 呼ぶなよ山よ  
町に帰って行く俺を 町に帰って行く俺を



教えられたよ 氷や雪を  
抱いてこらえて いる山に  
(\*くりかえし)

山よわかるか ピッケルふった  
山の男の あいさつを  
(\*くりかえし)

いつかあの娘と ウェディングベルを  
山の頂上で 鳴らしたい  
(\*くりかえし)

## 3. あざみの歌

作詞 横井 弘  
作曲 八州 秀章

山には山の 愁いあり  
海には海の 悲しみや  
まして心の 花園に  
咲きしあざみの 花ならば



2期 西村郁代氏の作品 野薊

高嶺の百合の それよりも  
秘めたる夢を ひとすじに  
くれない燃ゆる その姿  
あざみに深き わが想い

いとしき花よ 汝はあざみ  
こころの花よ 汝はあざみ  
さだめの径は はてなくも  
香れとせめて わが胸に

## 4. アルプス一万尺

アメリカ民謡  
作詞 不詳

アルプス一万尺 小檜の上で  
アルペン踊りを さあおどりましょう

\* ランラララ ララララ  
ランラララ ラララ  
ランラララ ララララ  
ラララララ



お花畑で 昼寝をすれば  
ちょうちょが 飛んできてキッスをする  
(\*くりかえし)

一万尺に テントをはれば  
星のランプに手がとどく  
(\*くりかえし)

## 5. 伊豆の踊り子

作詞、作曲 不詳  
YWV2 期のテーマソング

さよならも云えず 泣いている  
私の踊り子よ ああ 船が出る  
ああ ああ ああ  
天城峠で 逢うた日は  
絵のように あでやかな  
袖が雨に濡れていた  
赤い袖に 白い雨



さよならも云えず 泣いている  
私の踊り子よ ああ 船が出る  
ああ ああ ああ  
下田街道 海を見て  
目をあげた 前髪の  
小さな櫛も忘れぬ  
伊豆の旅よ さようなら

## 6. いつかある日

訳詞 深田 久弥

作曲 西前 四郎



いつかある日 山で死んだら  
古い山の友よ 伝えておくれ  
母親には 安らかだったと  
男らしく死んだと 父親には

伝えてくれ いとしい妻に  
俺が帰らなくても 生きていけと  
息子たちに 俺の踏み跡が  
ふるさとの岩山に 残っていると

友よ山に 小さなケルンを  
積んで墓にしてくれ ピッケル立てて  
俺のケルン 美しいフェースに  
朝の陽が輝く 広いテラス

## 7. 岳人の歌

作詞、作曲 不詳

YWV3 期のテーマソング

星が降るあのコル グリセードで  
あの人は来るかしら 花をくわえて  
アルプスの恋歌 心ときめくよ  
なつかしの岳人 やさしかの君よ



9期 鈴木弥栄男氏 白山の黒百合



白樺にもたれるは いとし乙女か  
黒百合の花を 胸に抱いて  
アルプスの恋歌 心ときめくよ  
なつかしの岳人 やさしかの君

## 8. キャンプファイヤーの歌

作詞、作曲 不詳

黄昏のそよ風は 白樺の森陰に  
若い日の一夜を 楽しく運ぶ(ラララ)  
赤く燃やせ かがり火を  
紫の空遠く たやすな歌声を



YWVの円陣 1963年夏合宿 飛騨高山

その姿の詩人が 豎琴を抱き寄せて  
人の世の楽しさ たたえた山に(ラララ)  
赤く燃やせ かがり火を  
美しいその心 友と分かちつつ

乳色の夜霧こめ 草しとねぬれる頃  
今日の火のフィナーレを  
きれいに閉じて(ラララ)  
赤く燃やせ かがり火を  
懐かしい思い出を 名残の小枝に

## 9. 国大山男の歌

某氏が出身の某都立高校の山岳部に所属する友人が歌っていた歌を  
若干歌詞を変えて、横浜国大・ワンゲルに持ち込んで皆に歌わせた。

元歌は不詳。「蔵王の山」の替え歌か？

立てばシャクヤク 座ればボタン  
歩く姿は ユリの花  
心に思えど 口には出さぬ  
それが国大ワンダラー  
ああ せつない わが心



2期 西村郁代氏の作品 笹百合

槍と子槍の 間に咲いた  
人に知られぬ 草花も  
俺には大事な 心の絆  
それは高嶺の 花なのさ

剣黒部は 自分の庭と  
そんな根性の 男でも  
高嶺の花には その手も出さぬ  
それが国大ワンダラー  
ああ せつない わが心



9期 鈴木弥栄男氏 八ヶ岳麓の芍薬

## 10. これでお別れか

作詞、作曲 不詳

これでお別れか おなごり惜しや ヨイヤサ  
雪の仙丈も吹けばよい



ヨーデルかけましょか 岩場の娘に ヨイヤサ  
歌うハーケン 血がおどる

きのうふっと見た あの娘の顔に ヨイヤサ  
なぜか気になる 泣きボクロ

## 11. 山 賊 の 歌

作詞 田島 弘

作曲 小島 佑嘉

YWV8 期のテーマソング



7 期 林誠一氏の作品 建長寺の雪椿

雨が降れば 小川ができ  
風が吹けば 山ができる  
ヤッホ ヤッホホ さみしいところ  
ヤッホ ヤッホホ さみしいところ

夜になれば 空には星  
月が出れば おいらの世界  
ヤッホ ヤッホホ みんなを呼べ  
ヤッホ ヤッホホ みんなを呼べ

## 12. シーハイルの歌

作詞 林 柁太郎

作曲 鳥取 春陽

岩木のおろしが 吹くなら吹けよ  
山から山へと われらは走る  
昨日は梵珠嶺 今日また阿闍羅  
煙立てつつ おおシーハイル



9期 鈴木弥栄男氏 ハケ岳山スキー場

ステップターンすりゃ たわむれかかる  
杉の梢よ 未練の雪よ  
心は残れど エールにとどめ  
屈伸滑降で おお シーハイル

夕日は赤々 シュプール染めて  
辿る雪道 果てさえ知れず  
町にはちらほら 灯火がついた  
ラッセル急げよ おお シーハイル

## 13. 四季の歌

作詞、作曲 荒木とよひさ

春を愛する人は 心清き人  
すみれの花のような  
ぼくの友だち



夏を愛する人は 心強き人  
岩をくだく波のような  
ぼくの父親

秋を愛する人は 心深き人  
愛を語るハイネのような  
ぼくの恋人

冬を愛する人は 心広き人  
根雪をとかす大地のような  
ぼくの母親  
ララララララ……

## 14. 夏 の 思 い 出

作詞 江間章子、作曲 中田義直

夏がくれば 思い出す  
はるかな尾瀬 遠い空  
霧のなかに うかびくる  
やさしい影 野の小径  
水芭蕉の花が 咲いている  
夢見て咲いている 水のほとり  
石楠花色に たそがれる  
はるかな尾瀬 遠い空



夏がくれば 思い出す  
はるかな尾瀬 野の旅よ  
花の中に そよそよと  
ゆれゆれる 浮き島よ  
水芭蕉の花が 匂っている  
夢見て匂っている 水のほとり  
まなこつぶれば なつかしい  
はるかな尾瀬 遠い空

## 15. 入 笠 山 の 歌

作詞、作曲 不詳

雪がまだらに 消えてって  
しょうじょうばかまが 咲くころは  
山の夫婦は ペンキ塗り  
みなが来るぞと ペンキ塗り



ヤブの木蔭で すずらんが  
静かに霧に 濡れるころ  
山の夫婦は ギボシ取り  
みなが来るぞと ギボシ取り

沢にブドウの 実がなって  
うさぎがそれを かじるころ  
山の夫婦は 薪拾い  
冬が来るぞと 薪拾い

鏡つき平に 冬が来て  
リスやたぬきが 眠るころ  
山の夫婦は 初すべり  
雪が来たぞと 初すべり

## 16. 挽 歌

作詞、作曲 不詳

山で死ぬ奴はよ 馬鹿だよと  
言ったおまえが なぜ死んだ  
俺を残して ただ一人  
霧の谷間に 消えた影  
ああ 切れたザイルが 目に浮かぶ



山で育てた 友情の  
山でなくした 雪の朝  
若い四つの 足跡が  
いつか二つの 尾根伝い  
ああ 俺は泣き泣き 駆け下りたよ

茶毘の煙が 目にしみる  
山のこだまも むせび泣く  
二度と山には 登るまい  
それがせめての 手向けだよ  
ああ 清い谷間の 花と咲けよ

## 17. ヒュッテの子守歌

作詞、作曲 不詳

山もくれて 雲が早いよ  
気にすることはない 雪が降るだけ  
坊やおやすみ しあわせに  
冬がゆけば 春が来るのさ 春が来るのさ



夜が更けて行く 外は吹雪だけど  
気にすることはない ペチカは紅い  
坊やおやすみ しあわせに  
明日の日は 雲のない青空さ 雲のない青空さ

遠い空に 響く雪崩よ  
気にすることはない 雪がとけるだけ  
坊やおやすみ しあわせに  
春が来れば 鳥が歌うさ 鳥が歌うさ

## 18. ピレネーの山の歌

作詞 不詳、作曲 古賀政男

ピレネーの 山の男は  
いつも一人 雲のなかで  
霧にぬれ 星をながめて  
もの言わず 切るはモミの木  
ハイホー ハイホー  
千年の 古い苔の木



ピレネーの 山の男は  
いつも一人 何を想う  
雨降れば 小屋の小鳥に  
ひげなでて 昔を語る  
ハイホー ハイホー  
思い出の 愛の駒鳥

ピレネーの 山の男は  
春は行き 夏はくるよ  
角笛は 風に流れて  
ほろ馬車は 今日も急ぐよ  
ハイホー ハイホー  
故郷の おまえの町へ

## 19. 冬の山

落ち葉落ちしく冬の山  
風寒くみちさえ遠し  
人の世全て言葉虚し  
ただ白樺に所縁を刻む



9期 日渡松男氏の作品 塔が岳の霧氷

ひる月淡く空澄みて  
鳥さえ憂いに啼くや  
人の世全て調べ虚し  
谷に向かいてうたを歌わん

新雪深く踏みしめて  
我が行くみちはいまだし  
人の世何のあーじも無し  
ひとり冬の山彷徨いゆかん



1. おちばおちしくふゆのやま  
 2. ひるつきあわくそらすみて  
 3. しんせつふかくふみしめて

1. かぜさむくみちさえとおし  
 2. とりさえうれいになくや  
 3. わがゆくみちはいまだし

1. ひとのよすべてことばむなし  
 2. ひとのよすべてしらべむなし  
 3. ひとのよなんのあーじもなし

1. ただしらかばにゆかりをきざむ  
 2. たににむかいてうたをやうたわん  
 3. ひとりふゆのやまさまよいゆかん

## 20. 穂高よさらば

作詞 不詳、作曲 小関裕而

穂高よさらば また来る日まで  
 奥穂に映える あかね雲  
 振り返れば 遠ざかる  
 まぶたに残る ジャンダルム



穂高よさらば また来る日まで  
 北穂に続く 岩の峰  
 振り返れば 遠ざかる  
 まぶたに残る 槍ヶ岳

穂高よさらば また来る日まで  
 前穂に続く 雪の原  
 振り返れば 遠ざかる  
 まぶたに残る 又白池

岩場よさらば また来る日まで  
 明神岳の 岩の肌  
 振り返れば 遠ざかる  
 まぶたに残る クルンゼ

## 21. ベルクハイル

作詞、作曲 不詳

俺とお前は ザイルで結ばれた  
若い仲間さ 励まし合って  
雪渓登れば 向うの尾根で  
山の女神が 手を振るぜ  
オーイ ベルクハイル ベルクハイル(ヘイ！)  
歌もはずむぜ



8期 池原盛彦氏 スイスでアルプホルン

俺とお前は テントで寝るとき  
共に見る夢 同じじゃないか  
クラストめざせば 氷の花が  
めぐる野山に 咲き誇る  
オーイ ベルクハイル ベルクハイル (ヘイ！)  
胸も踊るぜ

俺とお前は ハーケン打つ音が  
遥かなる峰に 響いて行くよ  
氷壁登れば 吹雪も晴れて  
明日は天気だ 陽も赤い  
オーイ ベルクハイル ベルクハイル (ヘイ！)  
汗もにじむぜ

## 22. 山 あ れ ば

作詞・作曲 成田正治

7期がリーダーでおこなった東北・夏合宿(昭和40年、1965年)の終結地、  
八甲田・酸ヶ湯温泉で地元の成田正治氏の曲を本部隊員が聴いたもの。

山あれば 谷あり  
谷あれば 水あり  
美しきかな



憂いあれば 母あり  
母あれば 涙あり  
やるせなきかな

## 母 の 夢

作詞・作曲 成田正治

母の夢 それは暖かい  
もうせんです  
柔らかい ねぐらです

## 23. 山 男 の 唄

作詞 神保信雄、作曲 不詳  
娘さん良く聞けよ 山男には惚れるなよ  
山で吹かれりゃよ 若後家さんだよ  
山で吹かれりゃよ 若後家さんだよ



娘さん良く聞けよ 山男の好物はよ  
山の便りとよ 飯盒の飯だよ

娘さん良く聞けよ 山男には惚れるなよ  
娘心はよ 山の天気よ

山男同士の 心意気はよ  
山できたえてよ とともに学ぶよ

春夏秋冬 山行く人の心はよ  
山にあこがれよ 親しい友とよ

娘さん良く聞けよ 山男には惚れるなよ  
息子達だけはよ 山にやるなよ

娘さん良く聞けよ 山男には惚れるなよ  
山できたえたよ 男意気だよ  
山できたえたよ 男意気だよ

## 24. 山 の 子 の 歌

作詞 不詳、作曲 坂下茂己  
YVV7 期のテーマ・ソング

歌声が  
あの小道にひびけば  
あの森陰 あの谷間  
山彦のうた  
山の子は 山の子は  
歌が好きだよ



9期 鈴木弥栄男氏の作品 赤石岳より荒川三山

雨が降り  
てるてる坊主が泣いても  
私たちは 泣かないで  
山をみつめる  
山の子は 山の子は  
みんな強いぞ

雲が去り  
青いみ空が見られりゃ  
歌いましょう  
山鳩と 兄と妹  
山の子は 山の子は  
みんな仲良し

## 25. 山 小 舎 の 灯

作詞、作曲 米山正夫

黄昏の灯は ほのかに点りて  
なつかしき山小舎は 麓の小径よ  
思い出の窓辺に寄り 君を偲べば  
風は過ぎし日の 歌をばささやくよ



暮れゆくは白馬か 穂高は茜よ  
樺の木のほろ白き 影も薄れてゆく  
寂しさに君呼べど 吾が声むなしく  
遥か谷間より こだまはかえりくる

山小舎の灯は 今宵も点りて  
独りきく若き日の 夢をのせて  
憧れは若き日の 夢をのせて  
夕べ星のごと み空に群れ飛ぶよ

## 26. 山 の 友 よ

成蹊大学山岳部歌

薪割り 飯炊き 小屋掃除  
みんなで みんなで やったっけ  
雪解け水が 冷たくて 苦労したことあったっけ  
今では遠く みんな去り 友をしのんで仰ぐ空



46期 肥塚愛氏の作品 厳冬の宝剣岳

前傾 外傾 全制動  
みんなで みんなで やったっけ  
雪が深くて ラッセルに 苦労したことあったっけ  
今では遠く みんな去り 友に便りの筆をとる

唐松 萌ゆる 春山に  
みんなで みんなで やったっけ  
思わぬ雪に ワカン履き 苦労したことあったっけ  
今では遠く みんな去り 友の姿を夢にみる

## 27. よ か 女 子

作詞、作曲 不詳

YWV8 期の裏？ソング(キャンプファイヤーの周りをインディアンの如く裸踊りをする  
数え歌。故森正之氏(8期)が持ち込んだ？一寸品が落ちるがご勘弁を。

1. \*アツそりやつ アツそりやつ  
アツそりやつそりやつそりやつそりやつ(2番以下\*繰り返し)  
一つ魂肝聞いたなら 一目見たとき よか女子  
\*は～あ～よか女子 ああよか女子(\*繰り返し)
2. 二つ魂肝聞いたなら 太ったところが よか女子  
(ふくれたところが)
3. 三つ魂肝聞いたなら 醜いところが よか女子  
(見ればみるほど)
4. 酔ったところが 5. 粹なところが 6. むくれたところが 7. 泣いたところが  
8. 妬いたところが 9. 苦勞かけたが 10. 歳はとつても  
アツそりやつ アツそりやつ  
アツそりやつそりやつそりやつそりやつ(舞台から消える)

### 愛唱歌集(故下村弘道君に捧ぐ)2000年5月の背表紙

ここに掲載された多くの歌は、ソニーミュージックハウス社の、  
—叙情歌唱歌全集— なつかしき歌 こころの歌  
からの抜粋と、昭和40年代初期(1960年代後半)の横浜国立大学ワンダーフォーゲル部の  
「歌集」の中から、編集者の勝手気ままにより選曲・編集したものである。

よく歌った山の唄と童謡、なつかしい叙情歌等を中心に選曲した。

製作・編集・・・服部 七郎(YWV7期)

選曲協力・・・池原 盛彦(YWV8期)

★上記製作・編集者と選曲協力者に抜粋と発行の了解を頂いた。<2007年4月>

★再編集・・・鈴木 弥栄男(YWV50周年記念事業実行委員会委員長、YWV9期)

2007年5月12日の記念山行「睦ヶ丸」参加者に28部配布した。

★再々々編集・・・鈴木 弥栄男 <2007年6月11日>

改定内容;使用させて頂いた写真や絵の出典を明示、「冬の山」楽譜と歌詞、「みはるかす」の楽譜、  
作曲者不詳の3曲が判明したので修正。採用写真など掲載内容を著作者に確認済み、多くはFreeの写真転用。

★非売品。著作権は、服部七郎、鈴木弥栄男に属します。

All copy right reserved by Mr. SHICHIRO HATTORI & Mr. YAE0 SUZUKI since June 1, 2007